

## プログラム

### 第27回臨床研修研究会プログラム

#### 主題：「新医師臨床研修制度を検証する」

日時：2009年4月11日（土）  
会場：ホテルラフォーレ東京  
研究会「御殿山ホール」  
懇親会「九重・金剛」

（敬称略）

- 9:00～9:05 開会挨拶  
第27回臨床研修研究会 担当病院 佐久総合病院 院長 夏川 周介
- 9:05～9:10 臨床研修協議会挨拶  
臨床研修協議会 理事長 矢崎 義雄
- 9:10～9:20 厚生労働省挨拶  
厚生労働省 医政局長（予定）
- 9:20～12:00 シンポジウムⅠ「5年経過した臨床研修制度を検証する」  
（発表20分、質疑5分）  
司会  
行天 良雄（医事評論家・医学博士）  
シンポジスト  
矢崎 義雄（臨床研修協議会理事長・独立行政法人国立病院機構理事長）  
小川 彰（岩手医科大学 学長）  
福井 次矢（聖路加国際病院 院長）  
岩崎 榮（NPO 法人 卒後臨床研修評価機構 専務理事）
- 12:00～13:00 理事会・評議員会（休憩・昼食）
- 13:00～13:20 臨床研修協議会総会 次回幹事病院挨拶
- 13:30～16:00 シンポジウムⅡ「望ましい地域医療研修とは」  
（発表15分、質疑5分）  
司会  
小泉 俊三（佐賀大学医学部総合診療部教授・附属病院院長特別補佐）  
高橋 勝貞（佐久総合病院老人保健施設長）  
シンポジスト  
向原 茂明（長崎県福祉保健部参事監・県立保健所長兼務）  
庭山 昌明（小千谷市魚沼市川口町医師会 参与）  
田中雄二郎（東京医科歯科大学医学部 臨床教育研修センター長）  
由井 和也（佐久総合病院小海分院 診療部長）  
岡村 博（みさと健和病院整形外科部長）
- 16:00～16:15 休憩
- 16:15～17:15 厚生労働省と文部科学省との協議  
司 会：夏川 周介（佐久総合病院 院長）  
厚生労働省：  
文部科学省：
- 17:15～17:20 閉会挨拶
- 17:30～19:00 懇親会

## “人”を取り巻く保健・医療・福祉の世界を魅せる ～地域発、大病院の研修医達へ～

小千谷市魚沼市川口町医師会

庭山 昌明、上村 伯人、根本 忠、根本 聡子

新医師臨床研修は、専門科以外の一般的疾病に対する基本的な診療能力が不足した事の弊害、技能優先のあまり患者の人間性が疎外された事例で医師の資質が問われた事などを問題視し、医師教育が見直されて開始された。そこには医師としての人格涵養、果たすべき社会的役割の認識、一般的な負傷又は疾病に対応できる基本的診療能力の3つが謳われ、臓器別医療と対比される総合的能力が期待されている。

小千谷市魚沼市川口町医師会では首都圏の総合病院から地域医療研修の受け入れを行っている。大病院での研修は、病院という特殊で重装備の環境に招き入れた“患者”を診る技術すなわち“キユア”を学ぶものだ。対して地域医療研修では、装備が限られた中での医療技術を学びながら、地域社会で普通に生活している“人”の生活圏の中に自らが入り込んでいく方法で、生まれ、病み、年老いて死ぬまでの当たり前的人生を支えるという“ケア”の側面が含まれ、“人”を取り巻く保健・医療・福祉の全貌を理解する良い機会であると考えられる。

我々の用意した研修の骨子は、“人”を取り巻く保健・医療・福祉を有機的に体験し、“人”を総合的に診る能力を身につけさせ、個人技能の習得と並行して、初期研修中に国や地域の社会福祉で求められる医師の役割を自覚し社会貢献の方法を考える機会を設ける事である。

実際のカリキュラムは外来や訪問診療といった診療所医師の基本的な業務のほか、学校医や産業医、ヘルスプロモーションなどの社会的な役割の研修、保健所業務の見学、要介護高齢者に関しては地域中核病院との連携、介護施設での研修（ショートステイやデイサービス、通所リハビリテーション）、訪問看護や訪問介護を実習するなど、多様な職種が1人の“人”を囲んで生活や医療の多方面から地域ぐるみで支えているシステムを包括する。また重度障害病棟・難病病棟の研修見学など、通常の病院研修ではあまり目の向けられない人間社会や医療の抱える諸問題の存在に気づきを得て、将来どの専門科に進んでもそれらを他人事ではなく考えていただけるように計らっている。

これまで研修された方からは、人が病む事の重さ、病みながら地域で暮らす事の意味を考えるようになったとか、これまで見えなかった退院後の患者さんが生活していく上での本人や家族、医療・福祉従事者の苦勞が実感できた、などの肯定的な内容のご感想を多くいただき、受け入れ側のモチベーションも高まった。

医師は医療界の最高位と慢心しがちだが、“人”を中心にした医療では他職種に教わる事も多く、介護する人・される人との近距離での対話を経験して、社会的な立場を今一度考えていただきたい。基礎研究や高度先進医療を志す方もすべて、歩み始めたばかりの感受性豊かな時期に地域医療の現場に触れて、社会に貢献するための素養を身につけてほしい。そこで得た種子は、自分の腕を磨きキャリアアップする過程で必ず芽を出し飛躍をもたらすことと信じている。当医師会での取り組みが地域医療研修の望ましいあり方の一つとして注目されたことは喜ばしいことである。